

UTokyo Compass 1年経過成果報告

2022年10月

UTokyo COMPASS の基本理念

対話から
創造へ

多様性と
包摂性

世界の誰もが
来たくなる大学

学知を生みだし、つなぎ、深め、卓越性と包摂性を実現

学術での卓越を実現するための、真理への探究心と学問の自由に根ざす研究

地球的な視野、高い倫理、粘り強い実践力、問いを立てる力を育む教育

多様な人間が集まり、課題の発見と共有と解決に取り組む場としての大学

地球規模の課題の解決へ貢献し、世界の公共を担うために創造的に自らの実践をデザイン

インクルーシブで自由なより良い未来社会の創造を目指す



対話の実践

学内構成員との対話

対話のテーマ

- 2021年5-9月 UTokyo Compass
- 2021年10月 総長選考会議
- 2022年1-2月 新型コロナウイルス
- 2022年3月 大学ファンド
- 2022年5月 ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)
- 2022年9月 グリーントランスフォーメーション(GX)

学外者との対話

東京フォーラム

未来社会協創推進本部アドバイザーリーボード etc.



東京大学 未来社会協創推進本部
Future Society Initiative(FSI)

第5回アドバイザーリーボード


UTokyo COMPASS

3つの視点に好循環を生み出すには

新たな時代の大学という法人の自律性・創造性のあり方を検討
自律的で創造的な活動の基盤となる
経営力を確立する

大学の経営力とは
「創造的に自らの実践をデザインする力」
基から行われる従来の役割にとどまらず、財務・人事・運営などに
とどまらず、学問の視野を広げ、いくつにも必要不可欠な改革や進化

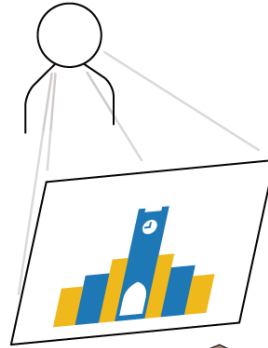
経営力を高める ▶ 大学の多様な教育研究活動と社会からの支持・支援を広げる
「公共を担う組織体」としての成長モデルを構築



3つの視点 (Perspective)

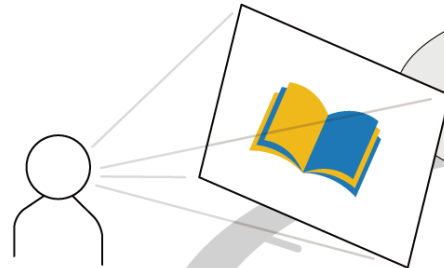
PERSPECTIVE 3

場をつくる



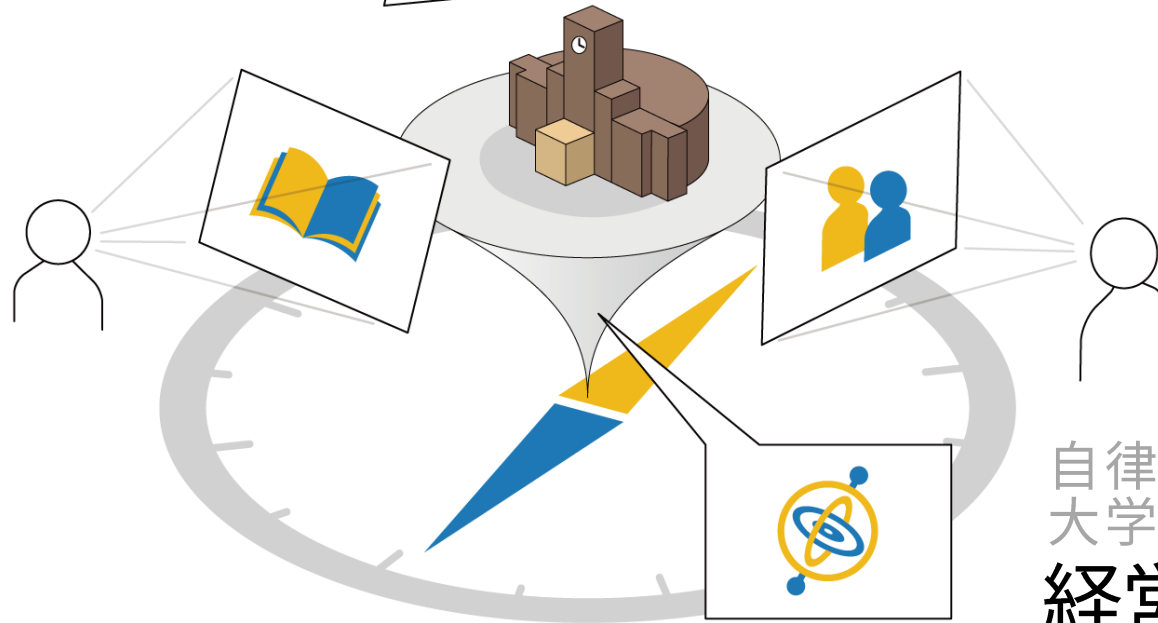
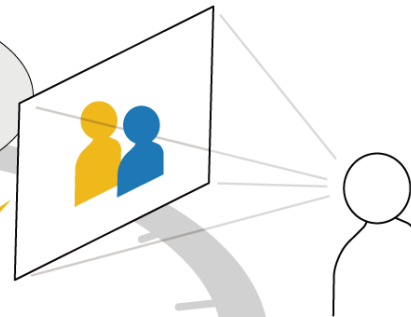
PERSPECTIVE 1

知をきわめる



PERSPECTIVE 2

人をはぐくむ



自律的で創造的な
大学活動のための
経営力の確立

20の目標



経営力の確立

1. 「自律的で創造的な大学モデル」の構築
2. 持続可能な組織体としての経営戦略の創出と大学の機能拡張
3. 大学が果たす役割についての支持と共感の増進



知をきわめる

4. 地球規模の課題解決への取組
5. 多様な学術の振興
6. 卓越した学知の構築
7. 産学協創による価値創造
8. 責任ある研究



人をはぐくむ

9. 包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ教育
10. 国際感覚をはぐくむ教育
11. 学部教育：専門性に加えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成
12. 大学院教育：高い専門性と実践力を備え次世代の課題に取り組む人材の育成
13. 若手研究者の育成
14. 高度な専門性と創造性を有する職員の育成
15. 大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育の実施



場をつくる

16. 安心して活動でき世界の誰もが来たくなるキャンパス
17. 教育研究活動の支援
18. サイバー空間に広がるキャンパス
19. 社会への場の広がり
20. 国際的な場の広がり



経営力の確立

世界の公共性に奉仕する「新しい大学モデル」へ

世界との橋渡し役を担い、そのシナジーを我が国の高等教育全体及び社会に還元する

基本的な考え方

「総合大学の新しいモデル」を自律的・創造的に構築する

- 「世界の公共性に奉仕する大学」（東京大学憲章）や「大学という法人の自律性・創造性のあり方」（UTokyo Compass）などの実現
- 大学全体への知の価値化の果実の再投資、大学間の互惠性への配慮・社会変革の原動力

「新しい大学モデル」に向けた取組み案（例）

GXなど地球規模の課題解決への貢献（ポストSDGsを見越した枠組み構築）

- グローバル・コモンズ・センターの強化により、マルチステークホルダー・コアリションをリード
- Center for Climate Solutions (米ニューヨーク市) への参画による先進的なモデル形成に貢献

世界に軸足を置いた研究活動（国内外の組織連携による研究力・国際認知度の向上）

- カロリンスカ研究所(スウェーデン)等の海外機関、理研、OIST、JICA、他

世界的に優秀な研究者の確保・育成(Endowment型基金による持続的な成長)

- Endowed Professorships / Lectures / Studentsによる頭脳循環の拡大と持続的な若手支援

政策対話を求めたい事項（例）

大学の中長期的な時間軸にあった会計制度

- 民間資金を繰り入れる「法定基金」を純資産に位置づけ、財務基盤を強化 ※現行は寄付金等を負債計上

大学の自己努力を促進する柔軟なファイナンス

- 大学債の用途の自由化（借換えによる資本性資金の強化、ソフト事業への先行投資財源）

（検討経過）

2021年8月～大学ファンド及び関連制度調査検討タスクフォースにおける検討→2022年3月「調査検討のまとめ」を公表
2022年4月～新しい大学モデル構想会議における検討→7月「新しい大学モデル構想(ブループリント)(素案)」を学内で共有



経営力の確立

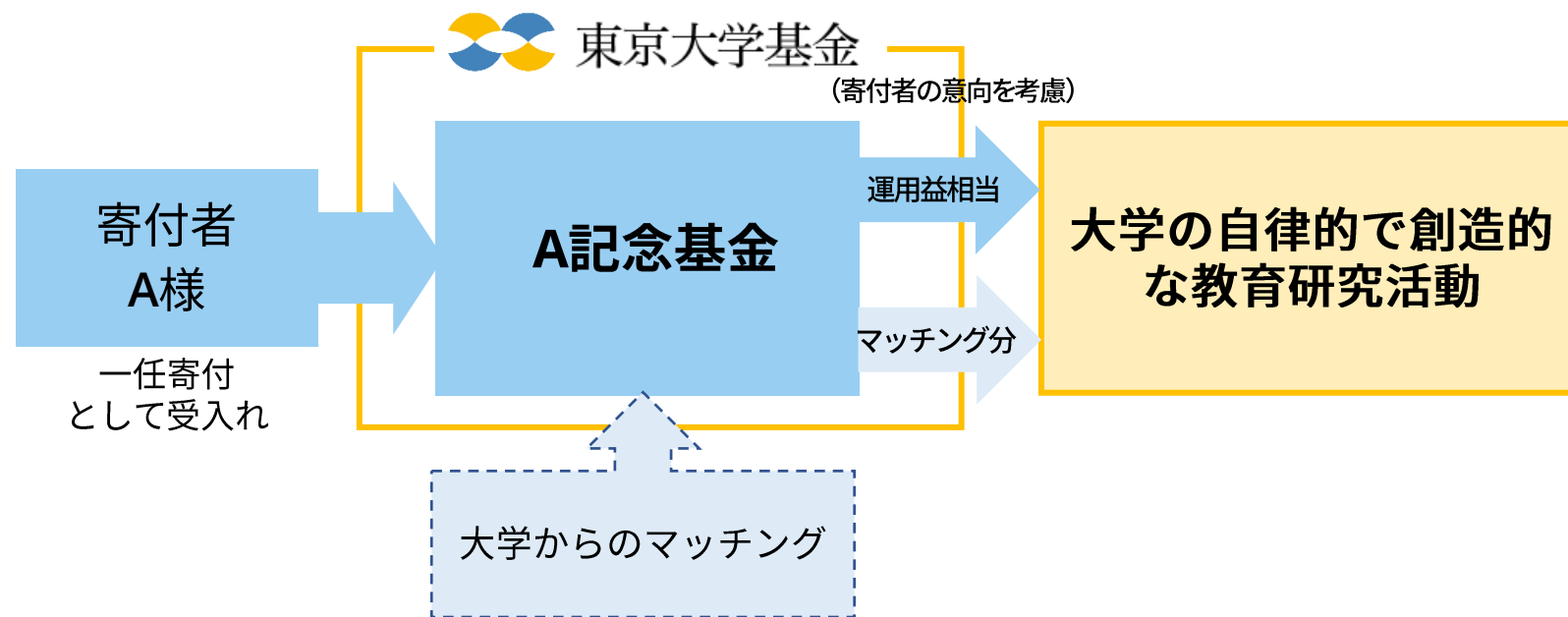
ウクライナ侵攻を受けた 学生・研究者の特別受入れプログラム

学部学生、大学院学生、研究者を対象に
31名を受け入れ (9月16日時点)

東京大学緊急人道支援基金 累計
約**1,500万円** (9月現在) を原資として、
渡日支援、住居支援、経済的支援、
生活支援を実施



Endowment型寄付の受け入れ





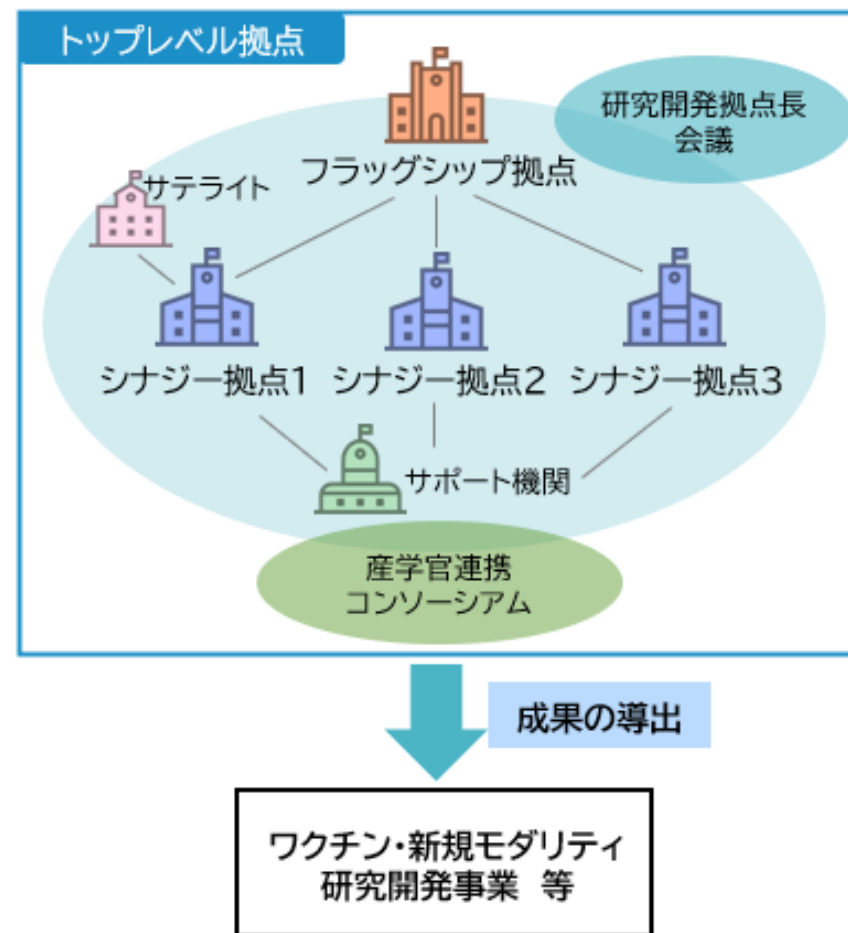
知をきわめる

PERSPECTIVE 1

ワクチン開発のための研究開発拠点

東京フラッグシップキャンパス 東京大学新世代感染症センター

- 「ワクチン開発・生産体制強化戦略」を踏まえた、ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群を形成する。
- 東京大学はフラッグシップ拠点として採択。以下の機能を担う、これまでにない世界トップレベルの研究開発を行う研究拠点を形成することを目指す。
 - 感染症有事に備え、平時において最先端の研究の中核的機能を発揮する
 - 独立性・自律性を確保した柔軟な運用を実現し、世界の研究者を惹きつける





人をはぐくむ

PERSPECTIVE 2

ポストコロナに向けて

全学交換留学派遣

- 2021年秋から再開
- 本学から49名を協定校へ送り出し

全学交換留学受入

- 2022年秋から再開
- アジア圏・ヨーロッパの協定校を中心に
163名の学生受入を予定（過去最高）

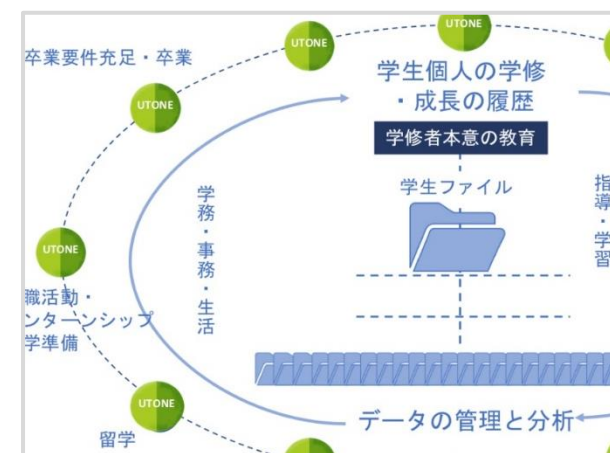


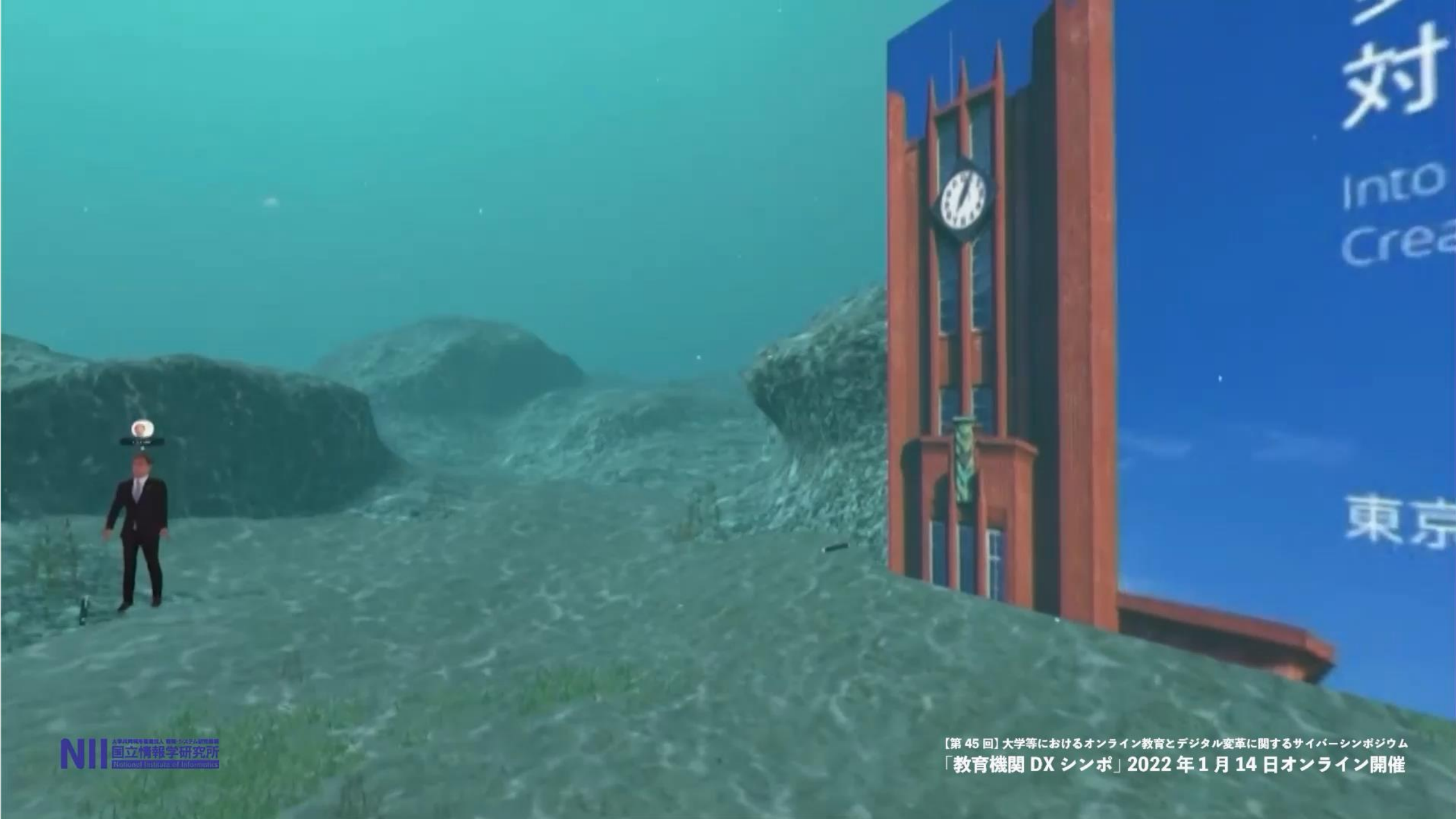
UTONE (UTokyo ONE)の導入

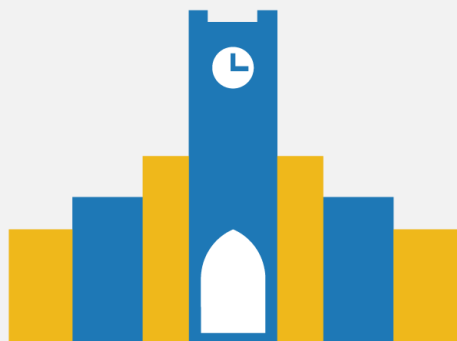
学生個人に最適化された学修支援システム

各学生のデータをクラウドに蓄積、AIを用いて自動分析
学生自ら主体的に利用可能な教育支援法を提供

学生側	個人の関心や志望するキャリアに適した科目や学内イベントを容易に見つけることが可能
大学側	データに基づくカリキュラムの改善、ニーズに応えた学生支援施策の立案が可能







場をつくる



PERSPECTIVE 3

未知の問いと出会うプログラム


SHIBUYA QWS 大学連携プログラム「QWSアカデミア」

QWS ACADEMIA SPECIAL
東京大学 藤井総長 × 慶應義塾大学 伊藤塾長
特別対談

ポストコロナ時代における
大学の価値とは？
～次の世代に何を残せるのか？～



2022年9月28日@SHIBUYA QWS スクランプルホール



6大学（東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学、東京藝術大学）が渋谷スクランブルスクエアで連携

年10回程度イベント開催、各回約100～300名が参加（オンライン参加含む）

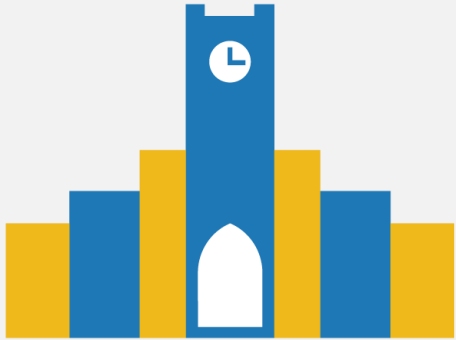
単に知識が伝達される授業ではなく、双方向に刺激を与え合い、化学反応を生み出すことを目指す

リカレント教育

「東京大学八重洲アカデミックコモンズ」の開設



社会人向け人材育成プログラム「スマートシティスクール」を2022年10月開講予定
今後、様々な分野のプログラムを提供



場をつくる

PERSPECTIVE 3

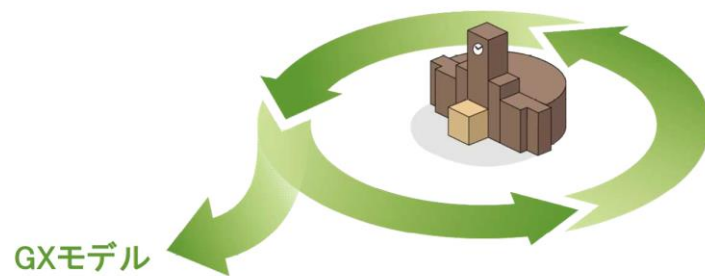
キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献

「東京大学と周辺地域の連携による東京大学本郷地区キャンパスエリア活性化に向けた基本構想」を策定



基本方針に基づき、現段階で想定し得る具体的な行動計画（アクションプラン案）を例示しており、今後学内や文京区等との協議を進め、実現可能性を検討していく予定

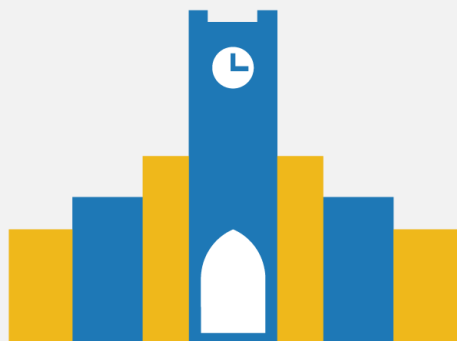
地域のお大学とのGXに向けた連携



文京区および区内の大学・短期大学と連携した取り組みを検討中

GXに向けた地域連携のあり方について、他大学・他地域が参照可能なモデルとして発信を目指す

2022年12月に、文京区内5大学（お茶の水女子大学、東洋大学、日本女子大学、日本薬科大学、東京大学）でGX関連イベントを開催予定



場をつくる

PERSPECTIVE 3

東京大学におけるスタートアップ支援



東京大学協創 プラットフォーム開発

東京大学投資事業会社 / 2016年

ファンド総額500億円超、
延べ約80社に投資(※)

2019年度にTCFD宣言に賛同

※ 間接投資経由を含む、東大関連
ベンチャーへの延べ投資社数

2021年12月末現在



東京大学エッジキャピタル パートナーズ

東京大学関連VC / 2004年

累積額約847億円の5本のファンドを
運営、大学関連VCの草分け

約130社に投資し、ペプチドリーム
など17社がIPO、13社がM&A

2022年2月末現在



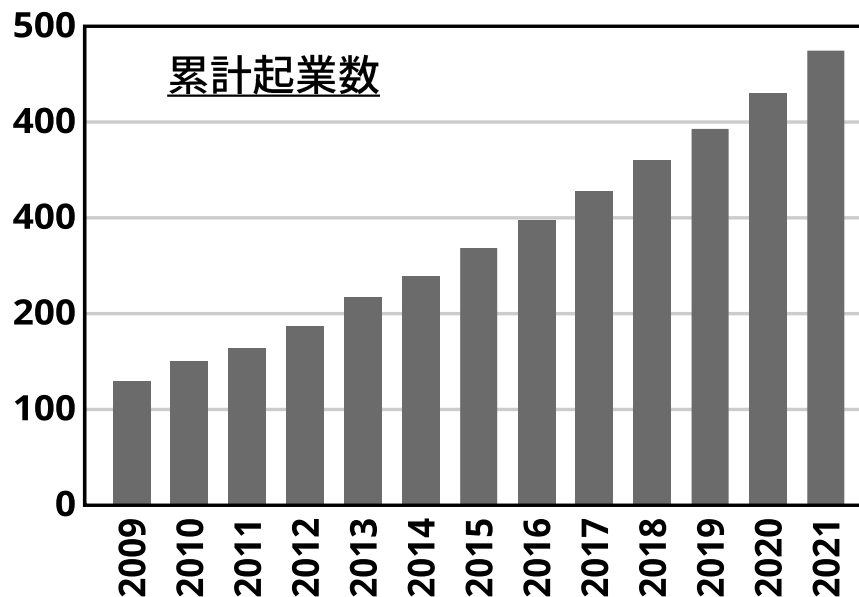
東京大学TLO

東京大学関連技術移転機関 / 1998年

累積で114.2億円のライセンス収入、
5,879件の契約を締結

SDGs関連技術移転を積極実施

2022年2月末現在



実績

東大関連ベンチャー累計478社

2020年度までに把握できた
社数から**40社**増加

2021年度はAI開発の株式会社
JDSCをはじめ**3社**が上場

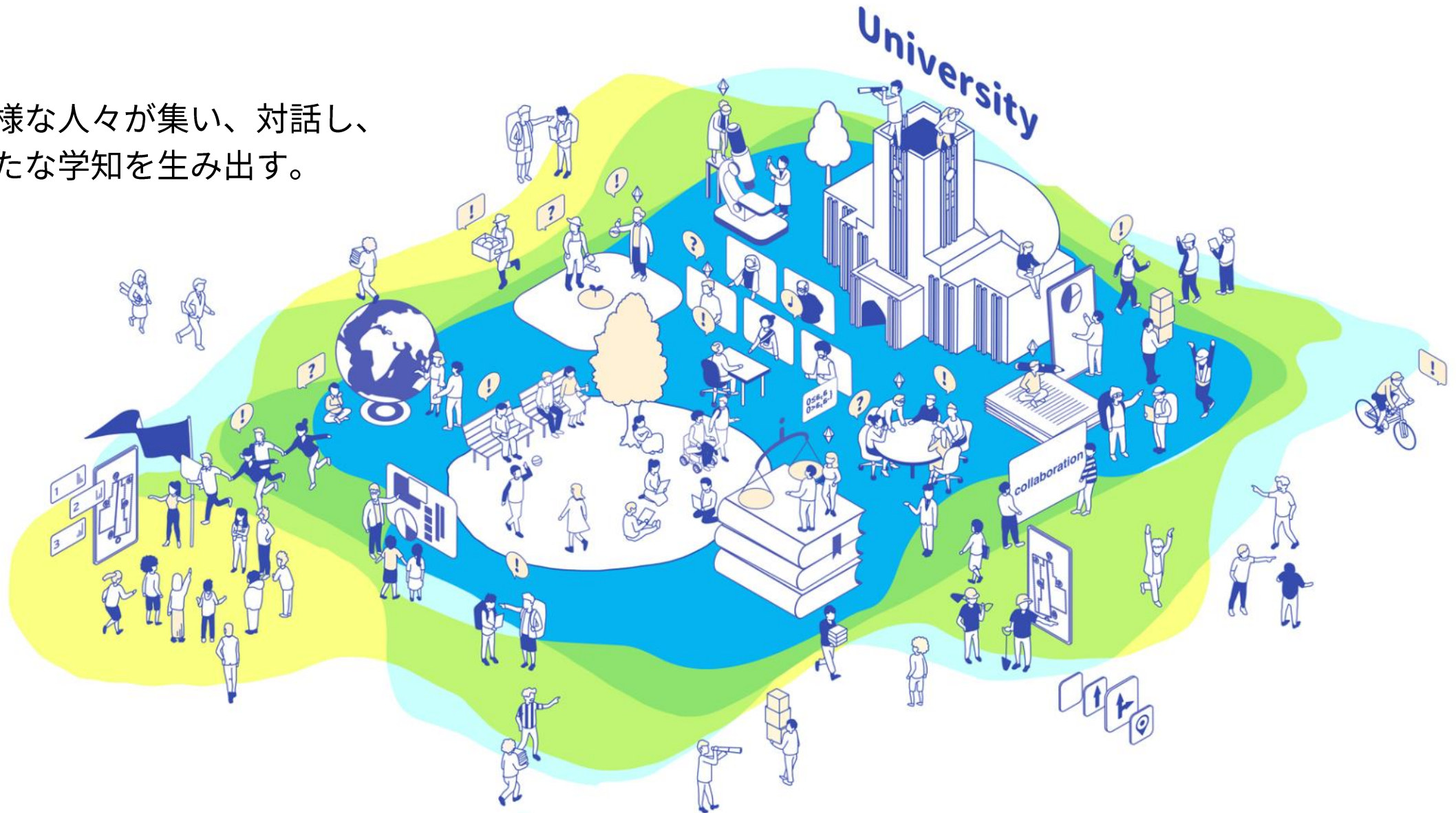
上場会社は累計**25社**

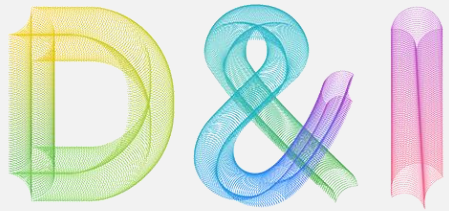
2022年3月末現在

国際的に高レベルの
実績とポテンシャル

UTokyo COMPASS ▲ が描き出すこれからの東京大学

多様な人々が集い、対話し、
新たな学知を生み出す。





UTokyo
Diversity&Inclusion

東京大学D&I宣言の制定 (2022年6月23日)

制定に際して対話集会や意見募集を実施
各種の機会に宣言の内容を周知

東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言

東京大学は、多様性が尊重され包摂される公正な共生社会の実現を促しているよう、東京大学の活動に関わるすべての方々にお伝えしたい指針として、「東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を定めます。東京大学は、この宣言とともに、「東京大学憲章」で謳われている多様性尊重の理念を再確認し、新たな段階へと深化させてまいります。

1. ダイバーシティ(多様性)の尊重

東京大学が基本的人権を尊重し、学術における卓越を実現するためには、多様な構成員によるたゆまぬ対話の実践が不可欠です。東京大学は、すべての構成員が人種、民族、国籍、性別、性自認、性的指向、年齢、言語、宗教、信条、政治上その他の意見、出身、財産、門地その他の地位、婚姻の状況、家族関係、ライフスタイル、障害、疾患、経歴等の事由によって差別されることのないことを保障します。

2. インクルージョン(包摂性)の推進

東京大学は、インクルージョンの精神を尊び、大学のすべての活動において、構成員の多様な視点が反映されるように努めます。多様な構成員が意思決定プロセスを含む東京大学のあらゆる活動において、様々な属性や背景を理由に不当に排除されることなく参画の機会を有することを保障します。そして、東京大学の構成員のみならず、一緒に活動するすべての方々が尊重され、また、その方々に、この宣言の考え方を共有するコミュニティの一員であるとの意識を抱いてもらえるよう努めます。

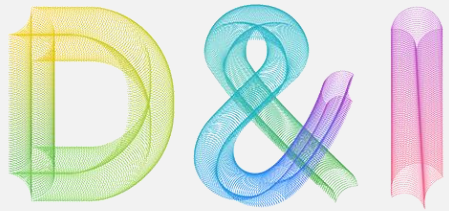
推進アクションの数々

- 車椅子の学生の分子細胞生物学研究を支援 (理学系研究科)
- 在宅勤務を通じた障害者雇用を推進 (経済学研究科)
- 働き方改革アクションプランを公表 (工学系研究科)
- 医学のダイバーシティ教育研究センターを設置 (医学系研究科)
- SaferSpace (KYOSS) とオールジェンダートイレを開設 (教育学研究科)
- 病児ベビーシッター(派遣型病児保育)制度を実施 (医学部附属病院)
- 物性科学のD&Iを考えるWomen's Weekを開催 (物性研究所)
- 超短時間雇用モデルを開発 (先端科学技術研究センター)
- 社会人向けインクルージョンデザインスクールを設置 (先端科学技術研究センター)
- ヨガピラティスのオンラインエクササイズを実施 (脳科学研究開発センター)
- 越境する学びをテーマにした多様な卒業生との議論 (情報学環)
- 駒場SaferSpace (KYOSS)の活動が進展 (総合文化研究科)

UTokyo Diversity&Inclusion
東京大学のD&I推進アクションの数々
全年から実施されたアクションのごく一部を紹介。
詳細はこちらから→<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/diversity-inclusion.html>

各部局において女性人事加速5カ年計画を策定

男女共同参画を推進する計画の策定、委員会の設置などの取組を順次推進
本部と部局の連携体制を強化するため意見交換会を開催



UTokyo
Diversity&Inclusion

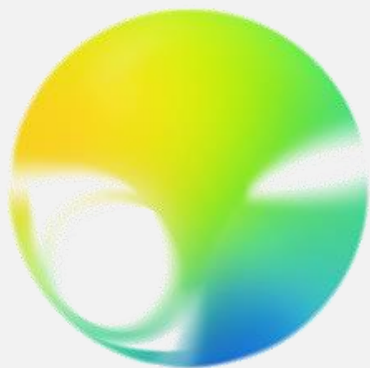
シンポジウム開催

東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言制定 記念シンポジウム～多様性の現在地と未来～

東京大学は本年6月に「ダイバーシティ&インクルージョン宣言 (D&I宣言)」を制定しました。本シンポジウムではこれを記念し、本学構成員、本学卒業生がそれぞれの視点から多様性と包摂性をテーマに課題を共有し、今後の取り組みと方向性を考えます。



日時： 2022年10月15日(土) 13時30分～15時30分
形式： オンライン(Zoomウェビナー)、情報保障(文字通訳)、日英同時通訳あり
参加費： 無料 (定員300名程度)

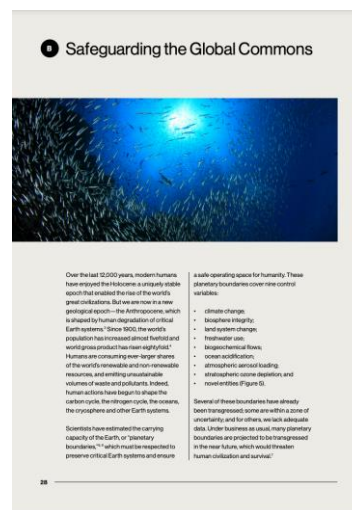


UTokyo
Green
Transformation

グローバル・コモンズを守り育てる

グローバル・コモンズ・センター (CGC: Center for Global Commons) の活動

世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）に先立ち、GCS Frame (Global Commons Stewardship Framework) を世界に発信



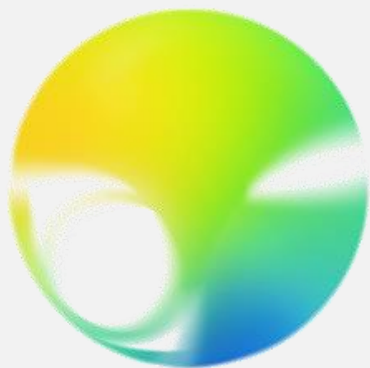
CGCが主導して、システミック社(英)、ポツダム気候影響研究所(独)、持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(国連)とともに、全84ページのフルレポートを2022年5月19日に公表。



グローバル・リーダーに対するダボスでのレポート公表イベント



ジェフリー・サックス教授、ニック・スターン教授、ポール・ポールマン氏などもGCS Frameに対する賛同を表明



UTokyo
Green
Transformation

ETI-CGC

Energy Transition Initiative-Center for Global Commons

2021年11月5日にCOP26 (グラスゴー) にてオフィシャル・ローンチ

東京大学CGC	参加企業 13社
CGC: Center for Global Commons グローバル・コモンス・センターが事務局。 ETCの分析を活用し、世界の知見・経験を動員	エネルギー 素材 輸送 流通 金融 その他
	東京電力、JERA、三菱ガス 住友化学、三菱ケミカル、AGC トヨタ自動車 三井物産 三菱UFJ FG、三井住友FG ダイキン工業、日立製作所、SBKK

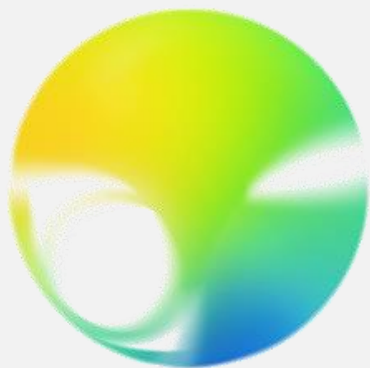
RACE TO ZERO

2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動を呼びかける国際キャンペーン



- 2021年10月に加盟 (日本の国立大学として初)
- 温室効果ガス排出削減計画を策定中

COP26にて、グラスゴーの会場と日本を繋いだ学生による対話イベントを実施



UTokyo
Green
Transformation

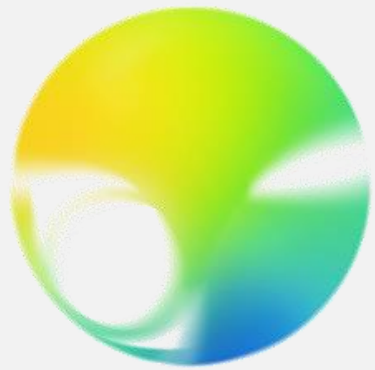
SPRING GX

GX人材、日本・地球の未来を託せる人材の育成



地球規模の課題に東京大学が有するアセットを“全投入”
理工系のみならず全学博士課程学生が対象
(ほぼ全研究科の学生が参加)

合計 600名への経済的支援
(D1:240名、D2:190名、D3:170名)



UTokyo
Green
Transformation

Stockholm+50 Conference



1972年に開催された国連人間環境会議から50年を経て
2022年6月に開催された会議。

テーマは

"A healthy planet for the prosperity of all
- our responsibility, our opportunity"

<https://www.stockholm50.global>



Sustainable Planet, Sustainable Health – How Science-Based Solutions Can Drive Transformative Change

Stockholm+50関連のアカデミックイベント。

主催はStockholm Trio + Stockholm Environmental Institute

<https://www.su.se/english/about-the-university/sustainable-development/sustainable-planet-sustainable-health-how-science-based-solutions-can-drive-transformative-change>

B-Corpの可能性
Public Benefit Corporation

ニューヨークにおける展開



2015年、米国での研究・教育・社会連携活動等の推進を目的としてマンハッタン中心部に開設

北米における本学のコミュニケーションハブ

セミナー・ワークショップ等の開催、現地の企業、卒業生、大学等とのネットワーク構築、米国での寄附獲得等にも活用

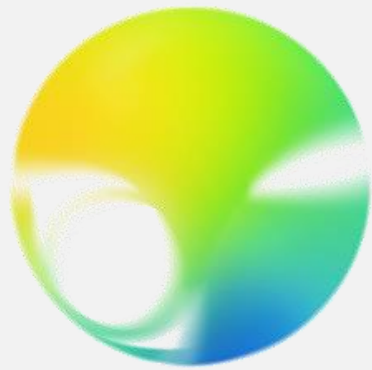
(米国国内歳入法501条C3項による免税組織)



Mayor Bill de Blasio Announces Finalists to Anchor City's Climate Solutions Center on Governors Island

DEC 21, 2021 2:27 PM





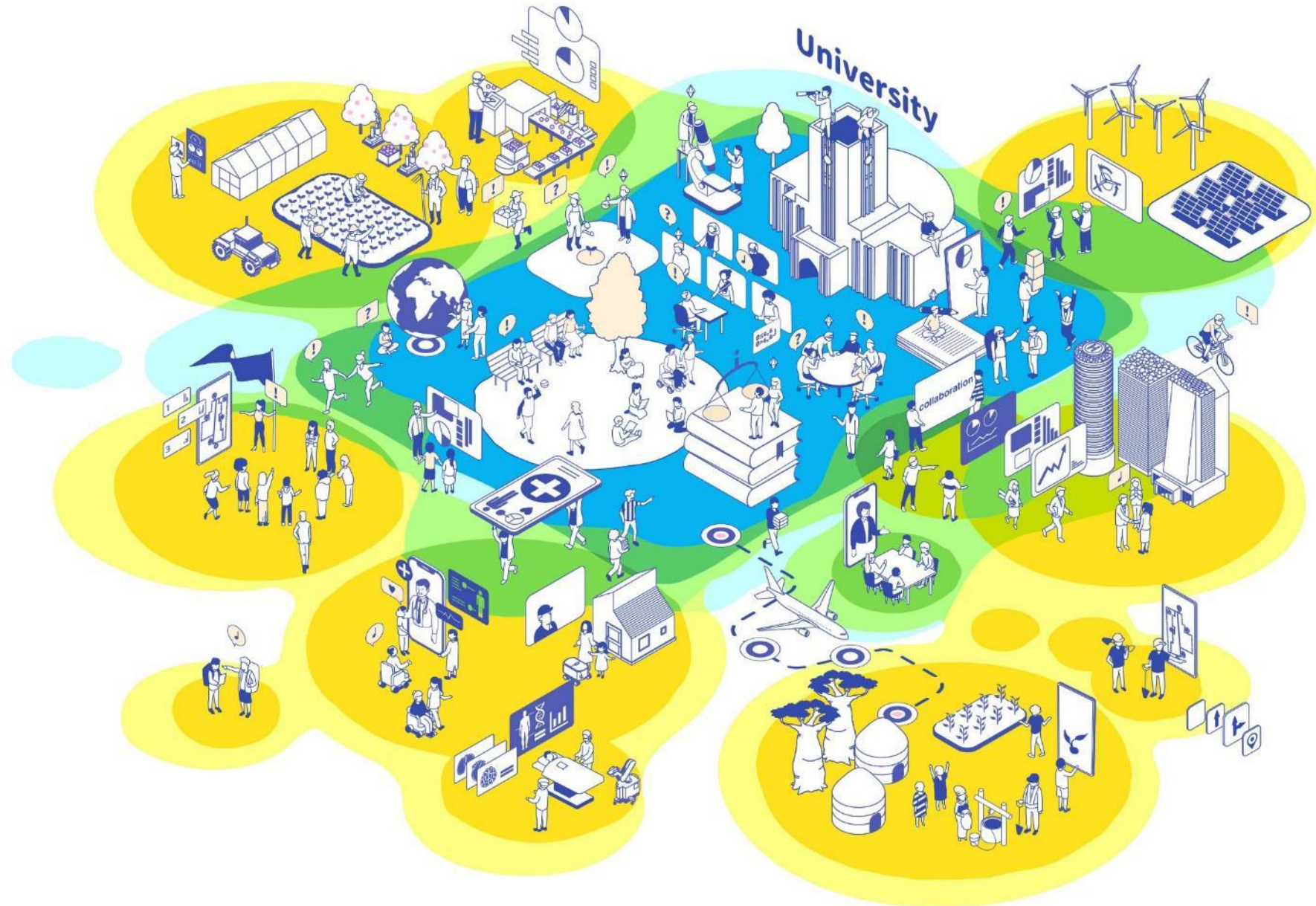
UTokyo
Green
Transformation

世界の公共性に奉仕する大学として



気候変動対策の研究・教育・普及を目的としたCenter for Climate SolutionsをニューヨークのGovernors Islandに建設するためのコンペティションに、東京大学はNortheastern大学のチームの一員として参加しています。

多様性に開かれた対話を通じてあるべき未来像を社会とともに創り上げる





2027年

東京大学は創設150周年を迎えます。